

減少を続ける日本の農業従事者

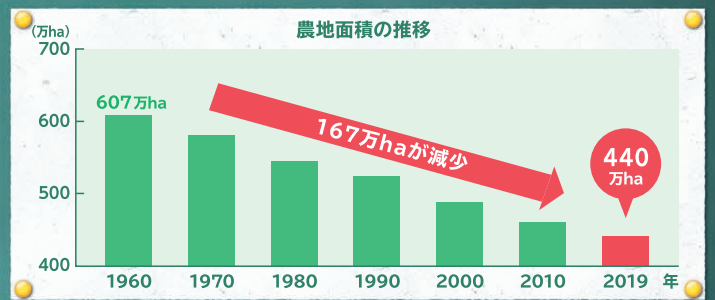
日本の「食」を次の世代につなげるために

なぜ今?
国消国産

毎年5万人以上の農業従事者が減少し続ける日本

左側のグラフは、日本の農業従事者数の推移を表していますが、2016年から2020年の間に、平均で毎年約5.6万人も減少しています。新規就農者も増加していますが、減少するペースには追いつかないのが現状です。また農業従事者の約7割が65歳以上で、

平均年齢は67.8歳(2020年)と、高齢化が進行しています。右側のグラフは、農地の面積の推移ですが、この60年間で約167万ヘクタールも減少しており、これは日本の国土の1/25以上にあたります。



農業生産基盤の弱体化は、今後の日本の「食」にとって大きなリスク

農業従事者の減少や高齢化によって耕作放棄地が増加すると、その土地を再び作物が生産可能な状態にするには、長い時間、手間をかける必要があります。農業従事者の減少と、それによる

農地の減少という農業生産基盤の弱体化は、国内の食料供給量の減少につながる大きなリスクです。

だから今!
国消国産

「国消国産」で、日本の「食」を供給してくれる農業を応援



※写真はイメージ

「国民が必要とし「消費する食料は、できるだけその「国」で生「産」するという「国消国産」をみんなですすめていくことが、国内の食料供給を支えてくれている農家と、農業を志す次の世代の背中を押すこととなります。農業従事者などの減少に歯止めをかけ、日本の「農業」と「食」の安定をはかっていくことが、私たちの安定した食生活につながります。

- 1 日本の農業生産基盤は弱体化がすすんでいる
- 2 農業生産基盤の弱体化は、私たちの食生活に大きなリスク
- 3 「国消国産」で、国内農業の持続と食料の安定供給を

ここがポイント!



JAグループサポーター・林修



耕そう、大地と地域の未来。JAグループ